

令和7年 お茶づくり技術情報 (No.10)

2025年10月1日

佐賀県茶業技術協会

佐賀県茶業試験場

1. 気象

1) 気象の経過

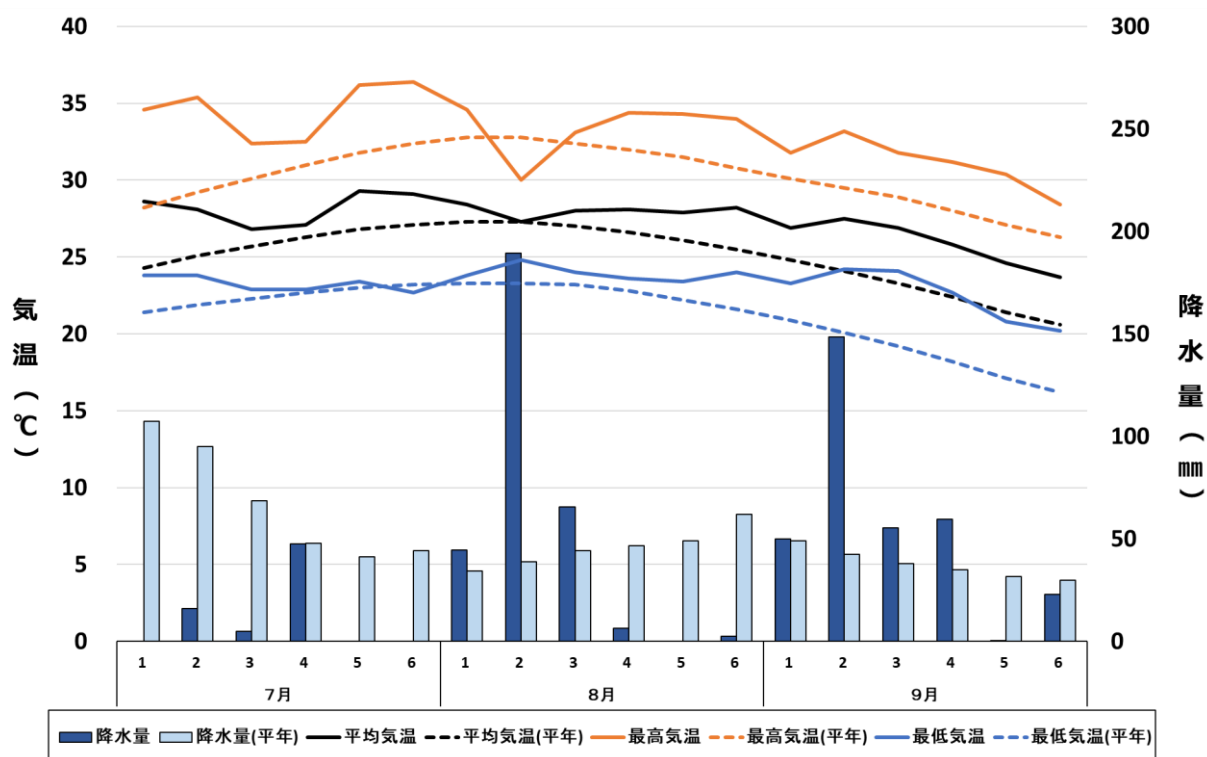
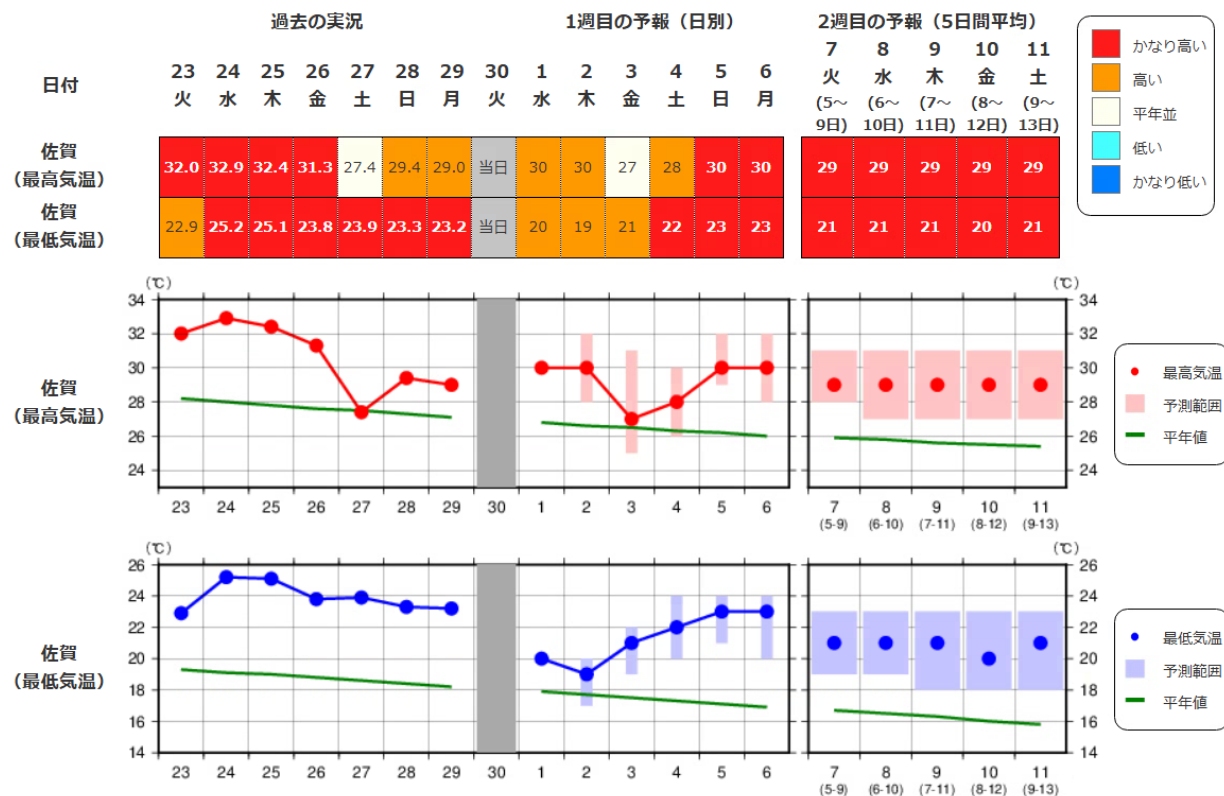


図1 2025年7月～9月における半旬別の気温および降水量

- 7月～9月の平均気温は、8月の第2半旬を除いたすべての期間で平年よりも高く推移している。また、最低気温が9月末でも20℃程度と高く推移している。
- 7月～9月で最も長い連続無降雨日数は、7月20日～8月3日の15日間で、芽の生育遅延がみられた。

2) 今後の気象の見通し

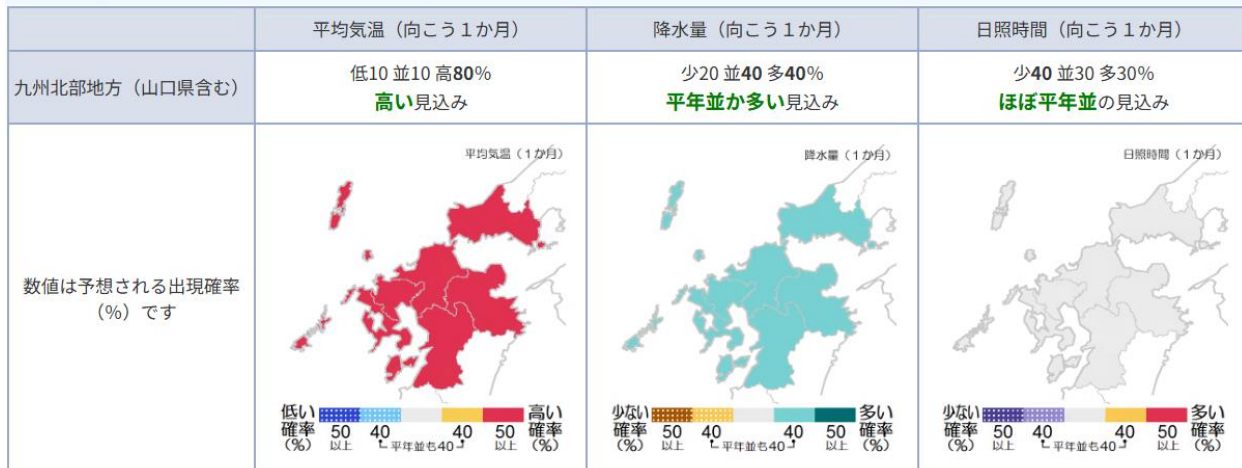
■ 2週間予報（気象庁、2025年9月30日発表）



■ 1か月予報（福岡管区気象台、2025年9月25日発表）

向こう1か月の天候の見通し

九州北部地方（山口県含む）（9/27～10/26）



- 暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いており、向こう1か月の気温も高い状態が続く見込み。特に期間の前半は、気温がかなり高くなると予想される。
- 向こう1か月の降水量は、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、平年並が多いと予想されている。

2. 今後の管理

1) 土壌・肥料

(1) 土壌 EC 値の動き

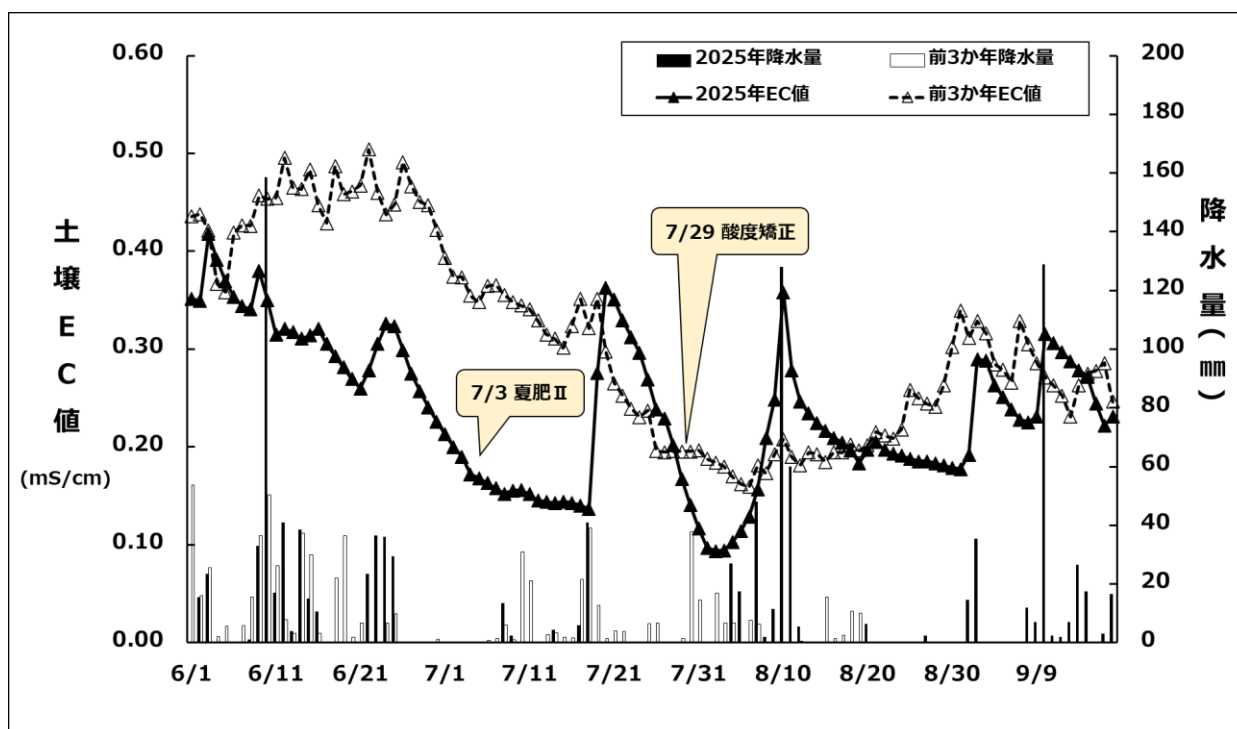


図3 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注1) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す

- 土壌 EC 値は、7 月下旬の無降雨期間中に大きく低下したが、その後の降雨により前 3 か年平均並みまで上昇した。
- 9 月中旬時点では、昨年および前 3 か年平均と同等の値で推移している。

(2) 秋肥の施用

- ・ 秋肥は、樹勢の回復と翌年の一番茶へ向けた養分蓄積、枝条の充実を図るために施用する。
- ・ この時期の茶樹の養分蓄積は翌年一番茶の生育、品質に大きく影響し、一番茶新芽に含まれる窒素のうち、秋肥に由来する割合は 12% 程度を占めることから重要である。

(3) 施用時期

- ・ 山間部では 9 月上旬ごろ、平坦部では 9 月中下旬ごろまでに終わるようにする（まだ施用していない場合はすぐ施用する）。
- ・ 施肥成分の分解や肥効を高めるため、施肥直後に土壌混和（中耕）する。

2) 秋整枝

(1) 整枝の時期

- ・秋芽の生育が停止する時期に行う（平均気温：18～19℃以下が目安）。

※昨年は11月上旬まで18℃以下にならず、例年並に秋整枝を行った茶園では再萌芽が多くみられた。今秋も高温予想が出ているため、急がずに気温の推移を把握して、適切な時期に作業を行う。

- ・整枝の時期は、越冬芽の大きさが小さい場合は早く、大きい場合は遅らせる（芽が大きいと再萌芽のリスクが高まる）。
- ・早生品種（さえみどり等）、早場地帯、幼木園や更新園は、比較的低温の時期まで秋芽が生長するため、整枝を遅らせる。
- ・秋芽が繁茂した茶園では、一度に深い位置で整枝すると日焼けを起こす場合があるため、本整枝の7～10日前に仮整枝を行う。

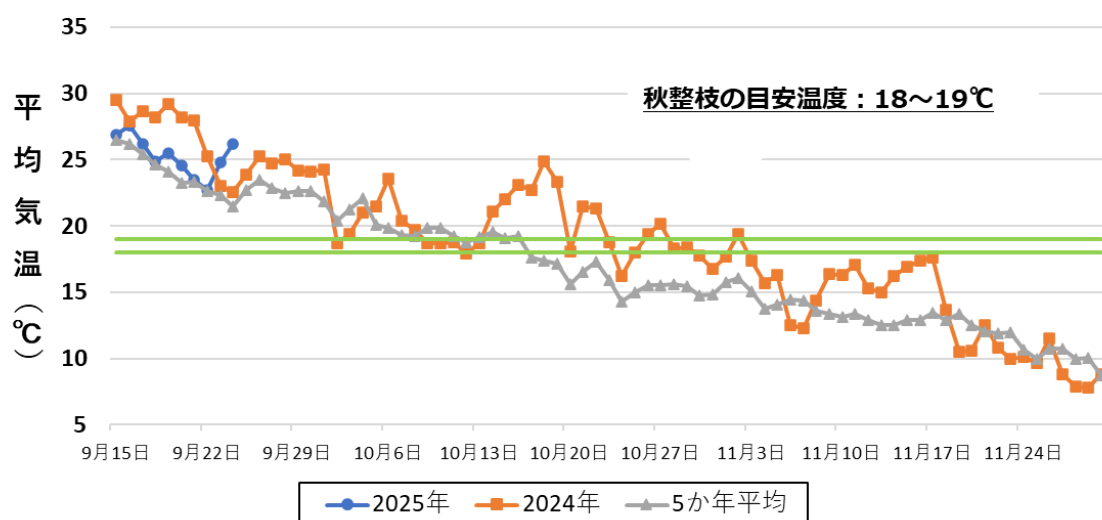
(2) 整枝の位置

- ・生育が良好な茶園では前回整枝面の2～3節上で（次項図①）、生育が不良な茶園では軽くならす程度に整枝を行い、葉層の確保（8～10 cm）に努める（次項図②）。
- ・葉厚が厚く、葉色の濃い、光合成能力が高い葉が表面に出るように調節する。
- ・整枝位置は、茶園の端で高さを決めると低くなりがちのため、少し内側に入った所で決定する。

(3) 干ばつ時の秋芽の整枝処理

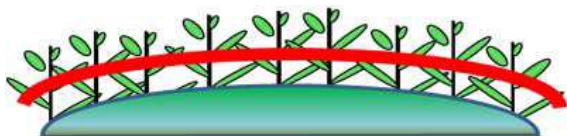
- ・干ばつにより生育不良となった茶園では、少しでも秋芽を伸長させるために、秋芽の生育が停止する時期まで秋整枝を控える。
- ・干ばつの影響がひどく、葉焼けや枝枯れにより葉層が確保できない場合は、樹体内養分や越冬葉量の不足から低温障害を受けやすくなるため、秋整枝をやめて春整枝を行うことも有効である。

嬉野アメダス平均気温（佐賀茶試内：標高80m）



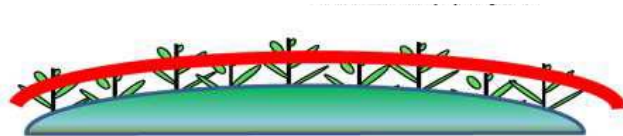
①生育良好園、幼木園

- ・葉層が厚く、芽数がある程度増やしても芽の生育が良い。

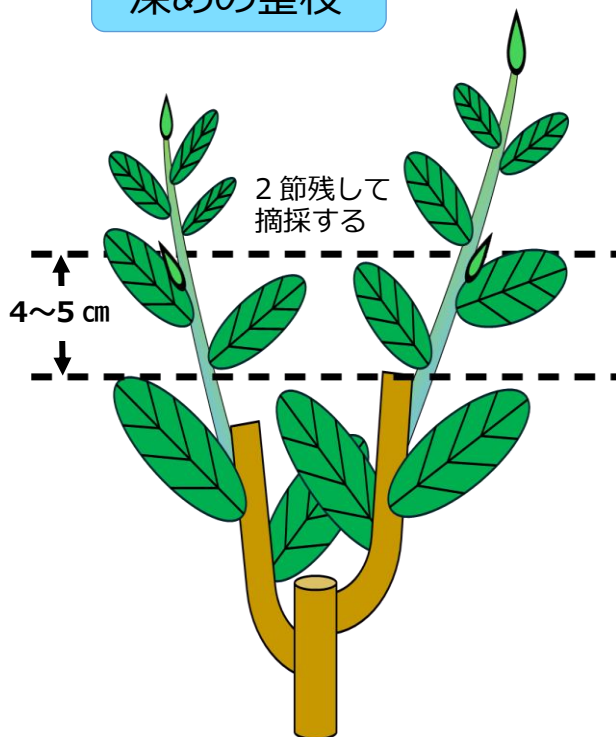


②生育不良園、三番茶摘採園

- ・葉層の確保を優先する。
- ・無理に深い整枝を行うと、芽伸びが不良
→収量・品質が低下

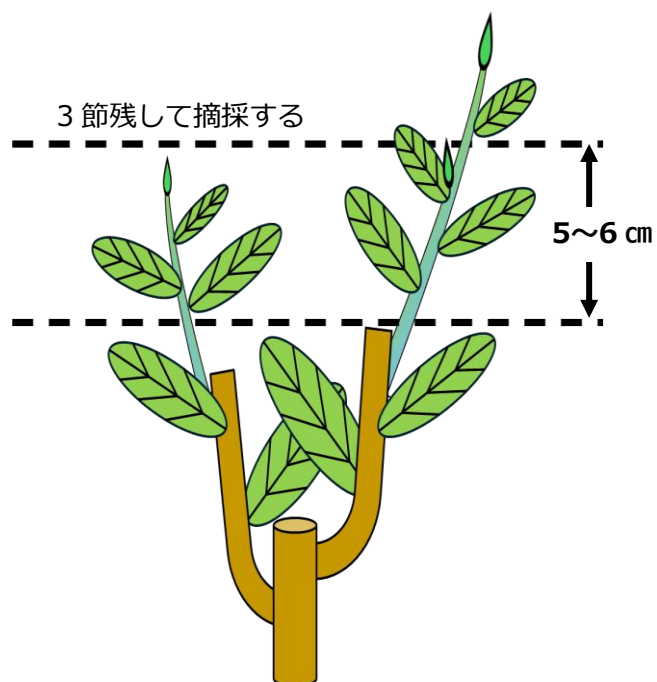


深めの整枝



(秋整枝位置)
前回整枝面より2~3節程度上げた位置
(4~5 cm程度上げた位置)

浅めの整枝



(秋整枝位置)
樹冠面を軽くならす程度とし、
頂芽を多く残す